

国別技能評価システムの概要
(技能評価システム移転促進事業)

更新日：平成 30 年 11 月 7 日

株式会社 J T B

Country	カンボジア																												
所管政府機関 Administrative Government Organization	Directorate General of Technical Vocational Education and Training, Ministry of Labour and Vocational Training (MLVT) 労働・職業訓練省 職業教育訓練総局																												
キーパーソン Key Person	責任者 Responsible Person	H.E. Laov Him, Director General of TVET Ministry of Labour and Vocational Training																											
	連絡窓口 Contact Person	Huot Chanthou, Vice Chief of Competency Assessment Office, Department of Standard and Curriculum Teang Sak, Director of department of standard and curriculum																											
技能評価制度 Skill Evaluation System	<p>技能開発政策は、コンピテンシー方式が採用されており、職業教育訓練総局において、2014 年 3 月に発令された閣僚会議令 (Sub-Decree) により承認された資格取得フレームワーク (Cambodia Qualification Framework, CQF) に基づき、職種、等級ごとに、標準訓練パッケージ、対応カリキュラム、評価パッケージ及び学習パッケージが開発されている。</p> <p>パッケージの開発に当たっては、アジア開発銀行 (ADB ; Asian Development Bank) の The Strengthening Technical and Vocational Education and Training (STVET) project 技術職業訓練教育強化 プロジェクト (第 1 次 2010-2015 年、第 2 次 2013. 1-2014. 12) 及び技術職業訓練教育セクター開発プログラム (Technical and Vocational Education and Training Sector Development Program (TVETSDP) 2015-2019)、ILO などが技術支援している。</p> <p>CQF : Cambodia Qualification Framework (カンボジア資格取得フレームワーク)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">レベル</th> <th style="width: 50%;">職業訓練校</th> <th style="width: 40%;">普通科教育校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>博士レベル</td> <td>博士レベル</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>修士レベル</td> <td>修士レベル</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>学士レベル(バachelor)</td> <td>学士レベル</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディプロマ(短大卒相当)</td> <td>アソシエート(短大卒相当)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Certificate3 号(1 年間：高卒相当)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Certificate2 号(1 年間)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Certificate1 号(1 年間：中卒相当)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>職業訓練認定</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>ADB の STVET 第 1 次プロジェクト期間において、①建設、②自動車機械、③ビジネス・情報通信技術の 3 つの業種を対象とし、計 21 職種 (注 1) について、レベル 2-4 にわたる 4 つの標準訓練パッケージが完成している。(STP : コンピテンシー・スタンダード (CS) 並びにコンピテンシー・ベースのカリキュラム (CBC)、評価パッケージ及び学習パッケージ)</p> <p>(注 1) 21 職種は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 建設：石工、下地大工、荷作仕上げ大工、鉄の製造・修繕、電線の敷設、配管、鉄構造の建設 ② 自動車機械：自動車サービス、自動車空調サービス、自動車電気サービス、オートバイサービス、自動車車体修繕、自動車塗装、自動車エンジン ③ ビジネス・情報技術：人事労務サービス、顧客サービス、コンピュータサービス、事務サービス、マーケティングサービス、コンピュータグラフィックサービス、販売サービス 		レベル	職業訓練校	普通科教育校	8	博士レベル	博士レベル	7	修士レベル	修士レベル	6	学士レベル(バachelor)	学士レベル	5	ディプロマ(短大卒相当)	アソシエート(短大卒相当)	4	Certificate3 号(1 年間：高卒相当)		3	Certificate2 号(1 年間)		2	Certificate1 号(1 年間：中卒相当)		1	職業訓練認定	
	レベル	職業訓練校	普通科教育校																										
	8	博士レベル	博士レベル																										
	7	修士レベル	修士レベル																										
	6	学士レベル(バachelor)	学士レベル																										
	5	ディプロマ(短大卒相当)	アソシエート(短大卒相当)																										
	4	Certificate3 号(1 年間：高卒相当)																											
	3	Certificate2 号(1 年間)																											
	2	Certificate1 号(1 年間：中卒相当)																											
	1	職業訓練認定																											

技能評価制度 Skill Evaluation System

=21 職種とその CS, CBC の開発状況=
CQF レベル 2、3、4 の標準訓練パッケージ (Standard Training Package)

セクター	コンピテンシー・スタンダード(CS)			コンピテンシー・ベースのカリキュラム(CBC)		
建設	レベル2	レベル3	レベル4	レベル2	レベル3	レベル4
石工	■	●	●	●	●	●
下地大工	■	●	×	●	●	×
造作仕上げ大工	■	●	●	●	●	●
鉄の製造・修繕	■	●	●	●	●	●
電線の敷設	●	●	●	●	●	●
配管	●	●	●	●	●	●
鉄構造の建設	●	●	●	●	●	●
承認職種数	16			20		

セクター	コンピテンシー・スタンダード(CS)			コンピテンシー・ベースのカリキュラム(CBC)		
自動車機械	レベル2	レベル3	レベル4	レベル2	レベル3	レベル4
自動車サービス	■	●	●	●	●	●
自動車空調サービス	■	●	●	●	●	●
自動車電気サービス	■	●	●	●	●	●
オートバイサービス	●	●	●	●	●	●
自動車車体修繕	●	●	●	●	●	●
自動車塗装	●	●	●	●	●	●
自動車エンジン	●	●	●	●	●	●
承認職種数	18			21		

セクター	コンピテンシー・スタンダード(CS)			コンピテンシー・ベースのカリキュラム(CBC)		
ビジネス・情報通信技術	レベル2	レベル3	レベル4	レベル2	レベル3	レベル4
人事労務サービス	■	●	●	●	●	●
顧客サービス	■	●	●	●	●	●
コンピュータサービス	■	●	●	●	●	●
事務サービス	●	●	●	●	●	●
マーケティングサービス	●	●	●	●	●	●
コンピュータグラフィックサービス	●	●	●	●	●	●
販売サービス	●	●	●	●	●	●
承認職種数	18			21		

<p>技能評価制度 Skill Evaluation System</p>	<p>■：2013年承認 ●：2017年承認 ×：開発されていない</p> <p>※全国訓練委員会（NTB：National Training Board）において承認された項目</p> <p>※このパッケージを用いて訓練プログラムが開発され、TVET 施設において活用されている。</p> <p>※このほか、製造業セクター（注2）のCQF レベル1及び2について、ILO の支援や経済財政省の特別基金により、開発が進められている。</p> <p>（注2）製造業において開発中の8職種は以下のとおり。</p> <p>①アーク溶接、②ガス溶接、③建築塗装、④業務用冷蔵・空調サービス、⑤家庭用冷蔵・空調サービス、⑥マシニング、⑦果物・野菜の加工、⑧パン焼き</p> <p>コンピテンシー・スタンダード（CS）の企業や訓練施設における評価ツールとしての活用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CS は、企業や訓練施設において評価ツールとして実際に活用されている。その目的は、到達しているべきと考えられるコンピテンシーや能力、要求される結果を産み出すために知識やスキルを応用することのできる能力の水準を定めることである。ある職業において（生産）活動を行い得る能力であり、雇用される期待として機能し、不確実な状況に対処する能力を含め、様々な状況の下で職務を遂行する能力と言える。 ・コンピテンシーを評価するツールを開発するためには、パフォーマンス・クライテリアを満たす必要がある。CQF レベル2 の下記の10の職種について、コンピテンシー・アセスメント・ツール（注3）が、2018年の終わりまでにRPL（Recognition of Prior Learning）が策定され、2019年に始動する予定である。 <p>① 建設（石工、下地大工、電線の敷設、配管）</p> <p>② 自動車（自動車サービス、自動車空調サービス、自動車電気サービス）</p> <p>③ ビジネス・情報通信技術 （コンピュータサービス、事務サービス、コンピュータグラフィックサービス）</p> <p>（注3）コンピテンシー・アセスメント・パッケージ（CAP）は、コンピテンシー・アセスメント・ガイド（CAG）とコンピテンシー・アセスメント・ツール（CAT）により構成される。上記の10の職種について、CAG はすでに開発されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3種類の証明書を発行している。国家技能評価認定証明書、技能証明書、単位成績証明書 ・技術向上のため、技能競技大会に参加する。
<p>実施体制</p>	<p>評価（試験）センターの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、28のTVET 施設が「評価（試験）センター」（Assessment（Testing）Center）に関心を示している。 ・2018年中に、上記の10の職種について、基準を満たし能力があると認められる10のセンターを選定する予定である。1職種につき1センターが選定される。あるTVET 施設が複数の職種の評価（試験）センターとなる可能性がある。 ・4つのセクター（電気、建設、製造及び自動車）のスキルカウンシル（Sector Skill Council）が設置されており、行政文書も発出されている。PPI（Preah Kosommak Polytechnic Institute；プレア・コソマック工科職業訓練校）は電気セクターのセンター・オブ・エクセレンスのひとつであり、PPIにもスキルカウンシルが設置される予定である。

◆2017年度実施状況

- ① 電工
職業訓練技法研修 (VTM) (+デモンストレーション)/技能評価者講習 (SAT) :
実施回数1回、受講者6名 (修了者6名)
- ② 配電盤・制御盤3級
技能評価者講習 (SAT)/技能評価トライアル (SET) :
実施回数1回、受講者13名 (修了者13名)、受検者6名 (合格者0名)
- ③ 本邦研修 シーケンス制御3級
職業訓練技法研修 (VTM)、技能評価技法 (SEM) : 受講者2名 (修了者2名)

◆2018年度実施状況 (予定)

- ① 旋盤3級
技能評価技法 (SEM) : 実施回数1回、受講者8名
職業訓練技法研修 (VTM) : 実施回数1回、受講者8名
- ② 配電盤・制御盤3級
職業技法訓練 (VTM) : 実施回数1回、受講者7名
技能評価トライアル (SET)/評価者認定 : 実施回数1回、評価者認定対象6名、受検者5名
- ③ 電工
競技トライアル (+デモンストレーション) : 実施回数1回、受講者5名 (評価者6名)
- ④ 電気系保全3級
技能評価者講習 (SAT)/技能評価トライアル (SET) : 実施回数1回、受講者人数未定、受検者人数未定
- ⑤ シーケンス制御3級
技能評価者講習 (SAT)/技能評価トライアル (SET) : 実施回数1回、受講者人数未定、受検者人数未定
- ⑥ 本邦研修 シーケンス制御2級
職業訓練技法研修 (VTM)、技能評価技法 (SEM) : 受講者4名

- ◆ 技法研修参加者 : 計27人 (日本開催のみ、2018年3月現在)
- ◆ 技能評価者講習参加者 : 計41人 (2018年3月現在)
- ◆ 技能評価トライアル開催回数 : 計5回 (2018年3月現在) (検定形式1回 2012年度に実施)
- ◆ 職業訓練技法 : 計2名 (日本開催、2018年3月現在)
- ◆ 職業訓練技法 : 計6名 (現地開催、2018年3月現在)

なお、2012年度においては現地において、「情報配線施工」の技法研修を実施した。2013年5月にはPPIより1名を招聘し同職種の技能評価者講習を実施した。
2017年度から職業訓練技法を国内研修と現地研修ともに初めて実施。職種は電気系職種に絞り、現地研修を行っている。

職業別修了者数

プログラム	2013			2014			2015			2016			2017		累計
	SEM	SAT	SAT/SET	SEM	SAT	SAT/SET	SEM	SAT	SEM	SAT	SAT/SET	SAT/SET	VTM/SAT	VTM/SEM	
配電盤・制御盤 3級	3						2	5		2	7	20			39
情報配線 3級			12	8				1			5				26
シーケンス制御 3級									2					4	6
電工													6		6
Total	3	0	12	8	0	0	2	6	2	2	12	20	6	4	77

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2015年9月末から始まったJICAプロジェクトの協力もあり、2017年11月に開催されたNPIC (National Polytechnic Institute of Cambodia ; 国立カンボジア高等工科職業訓練校) での全国技能競技大会にカンボジア日本人商工会 (JBAC ; Japanese Business Association of Cambodia) がスタディーツアーを実施、日系企業にも参加してもらったことがWEBニュースやTV2局にも取り上げられた。大会では各種サイドイベントも開催され、そのひとつとしてSESPP事業の電工に係る職業訓練技法研修 (VTM) (+デモンストレーション) と技能評価者講習 (SAT) が行われ、日本からのメダリストによる日本の技能をアピールした。 ・ NPICにおいて配電盤制御盤のSAT/SETを実施した。 ・ 配電盤制御盤では、2級までを目指す。 ・ シーケンス制御では、2級にレベルアップを目指す。 ・ 2017年度はシーケンス制御3級の技能評価技法・訓練方法について、日本での研修を行なった (参加者2名)。2018年度はシーケンス制御2級の本邦研修を予定。(参加者4名)
システム普及に向けた動き	<p>2018年度の本邦研修には、MLVTのHuot Chanthou氏 (Vice Chief of Competency Assessment Office of Department of Standard and Curriculum) が参加予定であり、研修終了帰国後、まずはアクションプランに則り、オリジナル課題で設定した技能を習得できる短期間の訓練コースを開発・実施し、国レベルへの拡大を図っていく。</p>
今後の課題	<p>官民の協力体制を強化することに対して特に現地政府側の認識が薄いので、関係強化を推進する必要がある。</p> <p>また、カンボジアでは日系企業が少ないのが現状であるため、現地企業や現地政府を積極的に巻き込んで各事業を実施していく必要がある。訓練施設と日系企業との連携をどのように行っていくか、インターンシップの受け入れ・就職支援、労働者と検定受験の連携強化が必要である。</p> <p>また、企業の人材育成に使ってもらえるよう周知広報が必要となる。</p> <p>既存の工場や新たに操業する工場では、その機械・設備を電気により制御しており、生産・加工プロセスにおける電気系統のオペレーション・メンテナンスができる人材が必要な状況にある。</p> <p>また、進出ラッシュまたは建設ラッシュにある工場・施設において、施設・設備の電気工事に従事する人材の供給が必要となる。将来的な世帯電化率の向上や環境エネルギーの普及をにらみ、電気分野の知識・技能をもった人材の育成が必要な状況である。</p> <p>現地関係者によると、配電盤制御盤のニーズが最も高く、シーケンス制御がこれに続く。電気工事は、日本の2級レベルの課題の習得と技能レベルの向上が課題である。</p>